

プレスリリース

2012.08.16

カカクヤスクといっしょに カカクヤスクといっしょに大切なこと “やってルンダ！！”キャンペーン”キャンペーン開始

～全国の西友店舗・HPにて、西友の環境・社会貢献活動をお知らせします～

合同会社西友では、2012年8月20日（月）より、全国の西友店舗にて、西友が現在実施している環 境・社会貢献活動をお知らせするための店内告知キャンペーンを開始します。当キャンペーン開始にあたり、西友では「ルンダちゃん」という明るく元気な女の子のオリジナルキャラクターが登場。今後は店舗やHPにて、ルンダちゃんが西友の環境・社会貢献活動をお知らせしていきます。

□西友HP内サステナビリティ・ページ<http://www.seiyu.co.jp/company/sustainability/>

ウォルマート・ジャパン／西友は、ウォルマート・グループが掲げる、“Saving people money so they can live better”、すなわち、「お客様に低価格で価値あるお買物の機会を提供し、より豊かな生活の実現に寄与する」という共通のミッション（使命）のもと、事業活動を展開しています。

ウォルマート・ジャパン/西友では、環境・社会貢献活動を始めとするサステナビリティ（持続可能性）活動を、広く多面的に展開していく必要があると考えます。商品のノントレイ化や店舗へのLED電球の導入等の環境活動により無駄をなくし、そこで生まれた原資を価格に投資することによって「Saving people money」の更なる実現を目指しています。また、社会貢献活動を積極的に実践することにより地域のお客様の「They can live better」に貢献することを目指しています。まさに、ウォルマート・ジャパン/西友においてサステナビリティ活動と事業活動は、いずれもそのミッションである“Saving people money so they can live better”を実現するために不可欠なもののなのです。

■「ルンダ」ちゃんとは

ヨーロッパ出身の8歳の女の子。
名前はルンダ。お父さんの仕事の都合で日本に引っ越してきました。
明るく元気、好奇心旺盛で学校で教わることで以外にも興味シンシン。
日本の学校に通って日本語を勉強している時、するんだ、やるんだといった語尾に「るんだ」というのが自分の名前と同じなので気に入っていつもルンダという言い方をします。
生まれた国が環境先進国でお父さんの仕事も環境関連なので、環境やエコに興味があります。
さっそくいつも行くスーパーのSEIYUのサステナブルな活動に興味を持ってあれこれ質問しまくっています。

■西友が現在実施している主な環境・社会貢献活動

環境活動

レジ袋使用量の削減

2013年末のマイバッグ持参率70%を目標に、7月よりレジ袋の有料化を開始しました

商品の容器包装削減の容器包装削減

生鮮食品やプライベートブランド商品を中心に、更なるノントレイ化を推進していきます

電力消費量削減

電力消費量を2011年比20%削減に取組んでいます

店舗での廃棄物削減

全店の廃棄物リサイクル100%を目指します

社会貢献活動

海岸林再生プロジェクト

東日本大震災により失われた海岸林を再生するプロジェクトへの助成・店頭募金活動を実施しています

フードバンク活動

フードバンク活動 食品廃棄物の発生抑制を図るとともに、期限到来前の食品を有効利用するため、福祉施設などへの食品寄付活動を実施しています

東北こそだてプロジェクト

こそだてプロジェクト 東日本大震災の被災地における助産師の活動を支援するプロジェクトへの助成・店頭募金 活動を実施しています

病児預かり保育支援

病児保育を通じたひとり親支援活動への助成・店頭での募金活動を実施しています。

この件に関するお問い合わせ

合同会社西友 企業コミュニケーション部 広報室 TEL03-3598-7760

※各活動の詳細については、次頁以降をご覧ください

西友の環境活動

レジ袋使用量の削減

マイバッグ持参率 マイバッグ持参率70%達成へ！(2013年目標)

ウォルマート・グループ全体では、2012年末までに全世界で店舗あたりのレジ袋使用重量を、2007年度比で33%削減するという目標を掲げています。この目標の達成に向け、ウォルマート・グループ全体でベストプラクティスや課題などを共有しながら、レジ袋削減に取組んできました。お客様のご協力により、マイバッグ持参率は年々上昇傾向にあり、2011年度は全店平均で52%を超えるまでになりました。2007年度比では、店舗あたりのレジ袋使用重量を約25%削減できたことになります。西友では、2012年7月より西友全店にて、レジ袋を有料化することにより、2013年末までにマイバック持参率70%を達成することを目指しています。

商品の容器包装削減

生鮮やプライベートブランドでさらなるノントレイ化を推進！

西友では、生鮮食品やプライベートブランド商品を中心に、容器包装の削減に取組んでいます。精肉販売においては、2009年より生肉の産地で販売用にトレイを使わずに真空パッケージ包装をする、「ノントレイ商品」を国産鶏肉に導入し、販売の拡大に力を入れています。販売開始以来、ご家庭での廃棄物を減らせるだけでなく、消費期限が通常より長いこと、いっそう価格が安くなったことなどからも、お客様から好評を頂いています。2011年のノントレイ商品の販売数量は、2010年に比べて23%アップしました。これは、同じ量の商品をトレイで販売する場合と比較して、21枚のトレイとラップを削減したことになります。継続的な取組みにより、2011年のトレイの使用総重量は、2007年比で26.2%削減することができました。現在では鶏肉以外に豚肉もノントレイ商品が販売されており、今後も取扱い品目を増やす予定です。また、カット野菜やカットフルーツについては、とうもろこし由来の生分解性「ポリ乳酸」を原料とした容器の使用を拡大しています。従来のプラスチック容器より強度が高いため、容器の使用重量を30%以上削減することが可能になります。西友では、2011年末までに、野菜や果物の販売に使用されている容器のうち、総重量比で約10%分を、ポリ乳酸由来のものに切り替えており、今後もその使用を拡大していく計画です。

電力消費量削減

LED照明導入などをすすめ、2011年比電力消費量年比電力消費量20%削減へ！

西友では、冷凍冷蔵設備や空調機の清掃・メンテナンスの強化、LED照明や主に改装店舗へのドア付冷凍ケースの導入など、使用電力の削減に取組んでいます。また、2010年の8月に多店舗エネルギー・トータルマネジメントシステム(多店舗EMS)の導入を開始し、2011年末までに、345店舗に導入しました。この多店舗EMSにより、電気、ガス、水道などの消費エネルギーの一元管理だけでなく、設備運営の見直しもタイムリーに行うことが可能になるため、エネルギー削減の取組みを加速することが可能になりました。2012年には290店舗にLED照明の導入を決定、また、設備機器の改善などその他の節電対策を更に強化することによって、2012年末までに2011年度比で電力消費量20%削減を目指します。

店舗での廃棄物削減

全店の廃棄物リサイクル100%を目指します！

西友では、ウォルマート・グループ全体での取組みとして、廃棄物の発生を抑制するため、店舗から出る食品の廃棄ロスを、2015年までに、2009年比で10%削減する目標を掲げています。ウォルマート・グループ全体で取組んでいる青果・精肉・ペカリーのカテゴリでの廃棄ロス削減に加え、日本では、西友独自の取組みとして鮮魚や惣菜のカテゴリにおいても、廃棄ロスの削減に取組んでいます。的確な発注を行い、鮮度管理を徹底することで、廃棄ロスのみならず、オペレーションコストも削減され、お客様にご満足いただける高い品質の商品を、低価格で提供し続けることができるようになります。また西友では、サマルリサイクル（熱回収）とマテリアルリサイクル（再資源化）の両方を「リサイクル」と定義し、店舗から出る廃棄物のリサイクルを進めることで、廃棄物をゼロにすることを目指しています。現在「ごみ発電」としても注目を浴びているサマルリサイクルについては、廃棄物の焼却により生じる熱を利用して発電を行い、余剰電力を外部利用（売電など）しているごみ焼却場を主に利用し、リサイクルを行っています。マテリアルリサイクルでは、紙類や金属類、プラスチック類などのリサイクルはもとより、店舗で出る生ごみを堆肥化するルートを開拓するなどの努力を続けています。2011年度には、100以上の店舗で廃棄物の100%リサイクル（ゼロウェイスト）を達成し、全社の廃棄物のリサイクル率も90.6%に達しました。

西友の社会貢献活動

「海岸林再生プロジェクト」プロジェクトへの助成・店頭募金

震災による津波で失われた海岸林をふたたび！

2011年3月、東北地方で発生した大規模な地震や津波は、宮城県名取市の海岸沿いにあった海岸林を、根こそぎ破壊しました。海岸林には、景観だけでなく、潮風や砂、強風から田畑や家屋を守るという働きがあり、地域コミュニティの繁栄にも大きな役割を果たします。公益財団法人オイスカは、海岸林を再生させることで、コミュニティの再生も図っていくという考えから、被災地復興支援として、宮城県名取市の海岸線およそ100haの土地への植樹を目指す「海岸林再生プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは第一に約50万本の苗木の育苗が必要となるため、最初の数年間は、必要な苗木の育成に最大の力を置き、活動を進めていきます。同時に、地元の被災者が苗木の育成を通じて生計を立てていけるよう、支援していくことも重要な要素となっています。西友では、地元の女性を中心とした苗木生産グループの組成やトレーニング、種苗の購入、育苗用圃場の整備などを支援する目的で、2011年末に、オイスカへ助成を行いました。また、このプロジェクトへの支援を通して、破壊されてしまった海岸林の再生だけでなく、地域コミュニティの復興に少しでも寄与できるように、店舗での募金活動も行っています。

フードバンク活動

「もったいない」食品を本当に必要とされる人々へ！

西友では、賞味期限および消費期限の管理を徹底するための社内ルールを設定し、期限到来前に食品を店頭より撤去しています。食品廃棄物の発生抑制を図ると共に、これら期限到来前の食品を出来る限り有効活用するため、日本初のフードバンクであるセカンドハーベスト・ジャパンと協力して、食品寄付活動を行っています。西友の店舗から定期的に集荷された食品は、西友の物流センターへ移送され、そこで一括してセカンドハーベスト・ジャパンへ引き渡されます。寄付先の福祉施設へは、その日のうちにセカンドハーベスト・ジャパンにより配送されます。過去3年間、関東近郊の数店舗においてパイロット・プログラムを実施したところ、食品寄付活動の各作業工程におけるノウハウが蓄積され、両者の作業効率も高まりました。この結果を受け、2012年6月からは37店舗に食品寄付活動を拡大し、本格的に始動することとしました。2016年までに、関東全域の約150店舗に、この活動を拡大することを計画しています。西友ではこの食品寄付活動を、小売業という本業を通じて社会に貢献できる重要な取組みと位置づけており、セカンドハーベスト・ジャパンが行うフードバンク活動の拡大を支援するために、助成や店舗での募金を行っています。

「東北こそだてプロジェクト」への助成・店頭募金

被災地の産後まもない親子を助産師さんとともに支えたい！

2011年3月の地震や津波は、医療機関にも大きな打撃を与え、生活に大きなダメージをもたらしました。特に出産前後の母子への影響は大きく、震災による劣悪な環境下での出産や育児が招く心身の健康被害は、その後の子育てや子どもの成長にも悪影響を残します。こうした状況の中、一人でも多くの母子を救おうという思いから、東北三県（岩手県、宮城県、福島県）の沿岸被災地で、助産師による産後母子に向けた支援活動「東北こそだてプロジェクト」が、一般社団法人ジェスパーールと一般社団法人福島県助産師会により2012年7月から開始されました。このプロジェクトでは、対象地域における産後一年以内の延べ3,000組以上の母子に対して、心身の健康管理の一助とする「産後母子相談会」や、相談会に参加できない母子を対象とした「産後母子巡回訪問」を無料で実施します。西友では、ジェスパーールと福島県助産師会の活動への助成と店舗での募金活動を実施しています。助産師の皆さんへの支援を通して、震災により医療インフラや地域コミュニティが崩壊したことで心身ともに新たな支えが必要な母子を、一組でも多く支援していくために貢献していきます。

病児預かり保育支援

ひとり子育てする親が安心して働けるように！

ひとり親世帯では、失業により生活が不安定になるリスクが一般世帯と比較して高いと言われています。また、小さい子どもが病気になった場合、夫婦で助け合うことができないひとり親世帯では、欠勤が増えることによる失業などの不安を抱えて、生活しているという現状があります。こうしたひとり親世帯が、安心して子育てと仕事を両立できるように、特定非営利活動(NPO)法人フローレンスでは、2008年7月から、病児保育を通じてのひとり親支援を始めました。この活動は、年収300万円未満のひとり親世帯向けに、低価格で病児保育サポートを提供するもので親支援対象のほぼ全てが母子家庭です。西友では、子育てと仕事の両立を目指す女性を支援する目的で、こうしたフローレンスの取組みに対して、2011年末に助成を行いました。2012年7月からは店頭募金も開始し、ひとり親世帯向けの病児保育サービス提供対象の拡大を支援しています。

以上